

科目名称	日本語表現 I B⑨⑫	授業コード	11106012
担当教員	麻 子軒		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2021
開講学期		開講学期	前期
関連資格	博学		

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる ・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける ・文章でものごとを客観的に説明できる ・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる ・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	課題提出 70 %、期末レポート 30%（5回以上の欠席はE評価になる）
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	坂東実子『大学生のための文章表現 練習帳 第2版』国書刊行会 2021 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	2021年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。

科目名称	日本語表現 I C		授業コード	13106012	
担当教員	新 聖子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修、学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる ・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける ・文章でものごとを客観的に説明できる ・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる ・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	課題提出 100%、6 回以上の欠席は E 評価になる。なお課題の内容と欠席の扱いについて初回の授業時に説明する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	『大学生のための文章表現練習帳 第2版』板東実子、国書刊行会、2021 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	2021 年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。

科目名称	日本語表現 I R①②③			授業コード	24106012
担当教員	新 聖子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修、学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる ・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける ・文章でものごとを客観的に説明できる ・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる ・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	課題提出 100%、6 回以上の欠席は E 評価になる。なお課題の内容と欠席の扱いについて初回の授業時に説明する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	『大学生のための文章表現練習帳 第2版』板東実子、国書刊行会、2021 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	2021 年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。

科目名称	日本語表現Ⅱ ①～⑥		授業コード	10106240	
担当教員	野口 雅司				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎/コミュニケーション/リテラシー
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を修得する。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるようになる。構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できる。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについて様々な視点から考え、共有できる。 ・ レポートの構造を把握し、文章が作成できる。 ・ 資料を読み、要点を抽出することができる。 ・ 資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。 ・ 信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。
授業の概要（内容）	「日本語表現Ⅰ」で学んだ基本的な日本語の文章表現のルールを応用し、レポートを作成する。レポートの構造を把握し、「論理的な文章能力」を育成することを目指す。
授業計画	<p>1：オリエンテーション：授業の進め方・課題・評価について</p> <p>2：レポート・論文課題の種類とタイプ：レポートの課題についてとテーマの絞り方について。</p> <p>3：レポート・論文の構成要素（1）：テーマの決め方について</p> <p>4：レポート・論文の構成要素（2）：5つの要素について・アウトライン・キーワードなど</p> <p>5：レポート・論文作成のための「情報カード」の作成と論文の種類別アウトラインの書き方（1）</p> <p>6：レポート・論文でよく使われる表現（1）：全体編</p> <p>7：レポート・論文でよく使われる表現（2）：序論編（1）</p> <p>8：レポート・論文でよく使われる表現（3）：序論編（2）・論文課題別アウトラインの書き方（2）</p> <p>9：実用文の書き方（1）：OB/OGへのコンタクト・面談の申し込みのメール</p> <p>10：実用文の書き方（2）：問い合わせ、依頼のメール</p> <p>11：実用文の書き方（3）：自己アピール（インターンシップ）</p> <p>12：レポート・論文で良く使われる表現（4）：本論と結論編（1）</p> <p>13：レポート・論文で良く使われる表現（5）：本論と結論編（2）</p> <p>14：論証型レポート：主題文とアウトラインの書き方について</p> <p>15：課題レポートのテーマの説明と全体のまとめ（評価について）</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業時間後も使用した教材を視聴できるようにしておくので復習に活用すること。また、毎回課題を課すので必ず提出すること。
評価方法	最終レポート(60%)・課題 40% (ミニレポート+語彙/表現など)： 課題提出が6回以上の場合はE評価とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、次回の講義で内容について解説する。
使用テキスト	オリジナル作成教材を視聴のこと。
参考テキスト・URL	
各自準備物	PC・電子辞書等
実習費	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記授業内容は各クラスの進度に合わせて変更する可能性がある。 ・ 課題は指定した期間内に提出すること。締め切り後や再提出の受け付けはしない。 ・ 履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。 ・ 2016年度以降の入学生限定。

科目名称	日本語表現Ⅱ ⑦⑧⑩		授業コード	20706240	
担当教員	中川 祐香				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎/コミュニケーション/リテラシー
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業				
遠隔の場合の主なツール	ポータル、One Drive、Forms				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を修得する。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるようになる。構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できる。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて様々な視点から考え、共有できる。 ・レポートの構造を把握し、文章が作成できる。 ・資料を読み、要点を抽出することができる。 ・資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。 ・信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。 				
授業の概要（内容）	「日本語表現Ⅰ」で学んだ基本的な日本語の文章表現のルールを応用し、レポートを作成する。レポートの構造を把握し、「論理的な文章能力」を育成することを目指す。				
授業計画	1：オリエンテーション、復習、参考文献リストの書き方 2：ブレインストーミング 3：ブレインストーミング、資料読み 4：立場を決める、資料選び 5：本論 理由 6：本論 資料を説明する 7：本論 資料を説明する 8：本論 意見を述べる 9：本論 意見を述べる 10：結論 11：結論 12：序論 13：序論 14：最終チェック、提出、振り返り 15：まとめ				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業前には当該授業のテキストを読んでおくこと。講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等を整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。				
評価方法	レポート 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%。欠席6回以上でE評価になる。欠席の扱いについては、授業初回時に説明する。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。				
使用テキスト	オリジナルテキストの配布				
参考テキスト・URL					
各自準備物	電子辞書等				
実習費					
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・上記授業内容は各クラスの進度に合わせて変更する可能性がある。 ・小テストは授業開始時に行う。あとで受けることはできない。 ・授業で配布された資料等をスクリーンキャプチャや写真撮影し、公開及び SNS で共有すること、担当教員に許可なく再配布することは禁止する。 ・履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。 				

科目名称	日本語表現Ⅱ ㊟		授業コード	20906240	
担当教員	角田 宏子				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎/コミュニケーション/リテラシー
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語での文章作成の基本を修得する。基本的な日本語の文章表現のルールを実際に応用しながら、まとまりのある論理的な文章が書けるようになる。構成を意識し、読み手に伝わる文章が作成できる。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについて様々な視点から考え、共有できる。 ・ レポートの構造を把握し、文章が作成できる。 ・ 資料を読み、要点を抽出することができる。 ・ 資料を適切に引用し、事実と意見を書き分けられる。 ・ 信頼性のある資料を探し、参考文献リストを作成できる。 				
授業の概要（内容）	「日本語表現Ⅰ」で学んだ基本的な日本語の文章表現のルールを応用し、レポートを作成する。レポートの構造を把握し、「論理的な文章能力」を育成することを目指す。				
授業計画	<p>1：授業の概観と評価について</p> <p>2：日本語表現Ⅰの復習－第1章、第2章、第3章</p> <p>3：レポート・小論文・アカデミックライティング－第4章、第5章</p> <p>／【課題1】</p> <p>4：引用のルール復習／【課題2】</p> <p>5：レポートの表現－第6章、第8章</p> <p>6：レポートの構成－第7章／【課題3】</p> <p>7：レポートの切り口－第7章、第11章／【課題4】</p> <p>8：設計図を作る－第13章／【課題5】</p> <p>9：データ分析－第9章</p> <p>10：要約の文章－第10章／【課題6】</p> <p>11：論理展開と引用の表現－第12章</p> <p>12：要約の文章－第15章</p> <p>13：レポートを整える／【課題7】</p> <p>14：レポートの論証を点検する</p> <p>15：総復習／【課題8】</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業前には当該授業のテキストを読んでおくこと。講義後も授業内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等を整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。				
評価方法	小レポート 30%、課題 70%。欠席6回以上でE評価になる。毎時間の小レポートの提出をもって出席とする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。				
使用テキスト	『日本語表現法』2015年改訂第1版、ワオ・コーポレーション ※電子書籍の購入も可 ※1次販売で購入していない学生は、2次販売を待たずに各自ネットで購入すること				
参考テキスト・URL					
各自準備物	電子辞書等				
実習費					
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当クラスでは、初回授業に関する連絡を、第1回授業日の前日に、大学アドレスメール (Outlook) で行うので、受信出来るようにしておくこと。 ・ 履修は「日本語表現Ⅰ」を単位修得した者に限る。 ・ 2015年度以降入学生限定。 				

科目名称	文章表現法 A/ I ①②		授業コード	20106251	
担当教員	角田 宏子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	コミュニケーション
年次	2	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：大学生としてふさわしい教養と、社会で活躍するために必要な日本語の実践的な技術を身につける。多様なコミュニケーションの場に対応できる力の修得を目的とする。日本語表現Ⅰ・Ⅱで学んだアカデミック・ライティングの基礎を生かし、各自の大学での学びと自己を簡潔な文章で説明出来るようになる。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らを客観的に見つけ、経験を整理し、文章で表現することができる。 ・無駄を省いた簡潔な文章で表現できる。 ・社会に視野を広げ自身との接点を意識した客観的な文章が書ける。 				
授業の概要（内容）	<p>これまでに書いてきた長文のレポートとは異なり、300字、あるいは800字程度で自己をパフォーマンスできる文章作成の演習を行う。そのための読解資料を配布するが、各自で関心に添った資料を収集し準備することも求める。グループワークも取り入れる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：授業内容ならびに課題についての詳細説明 2：コミュニケーションの文章 3：自分を見つめて書く（人間）、課題1 4：与えられたテーマで書く 5：自分を見つめて書く（学生） 6：与えられた文章について書く 7：自分を見つめて書く、課題2 8：自分を見つめて書く（職業観） 9：自分を見つめて書く、課題3 10：社会への関心をもとに書く（業界） 11：社会への関心をもとに書く、課題4 12：社会への関心をもとに書く（専門） 13：社会への関心をもとに書く、課題5 14：社会への関心をもとに書く（持続可能な発展）、課題6 15：社会人となる自己を語る、課題7 				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	課題の下調べ、材料集め、再提出課題の作成				
評価方法	小レポート30%、課題70%。欠席6回以上でE評価になる。毎時間の小レポートの提出をもって出席とする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説を行う。提出された課題には、コメントをつけて返却する。				
使用テキスト	授業ファイルを配信する。				
参考テキスト・URL	『最新最強のエントリーシート・自己PR・志望動機'22年版』成美堂出版				
各自準備物	電子辞書等				
実習費					
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・当クラスでは、初回授業に関する連絡を、第1回授業日の前日に、大学アドレスメール（Outlook）で行うので、受信出来るようにしておくこと。 ・履修は「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」を単位修得した者に限る。 ・2015年度以降入学生限定。 ・文章表現法Aと文章表現法Bはそれぞれ独立した科目であり、単独で履修可能である。 				

科目名称	文章表現法 B/II①②	授業コード	20106261
担当教員	新 聖子		
単位数	2	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2021
関連資格		科目分類	コミュニケーション
		開講学期	後期

対面・遠隔の別	遠隔授業（リアルタイムおよびオンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルおよび Teams
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	目的：大学生としてふさわしい教養と社会で活躍するために必要な日本語の実践的な技術を身につける。日本語表現Ⅰ・Ⅱで学んだアカデミック・ライティングの基礎を生かし、さまざまな場面で必要とされる表現したいこと、伝えたいことが言語化できるようになる。 目標： ・文章を読み、要点を抽出することができる。 ・テーマについて理解を深め、考察しまとめることができる。 ・情報を整理し、的確に口頭で説明することができる。
授業の概要（内容）	日本語表現ⅠおよびⅡで学んだことを踏まえ、この科目では読解や口頭表現を含めた言語活動の訓練を行う。具体的活動として、文章や映像資料から必要な情報を取り出し内容を整理する。また談話構成を意識し、グループワークを通して相手にわかりやすく伝える練習を重ねる。コース中最低2回プレゼンテーションを行う。
授業計画	1：オリエンテーション、客観的に宣伝する 2：情報を理解する①読解 3：情報を理解する②要約 4：方法を説明する 5：情報を提供する①事実について 6：情報を提供する②本の内容について(1)読解 7：情報を提供する③本の内容について(2)作文 8：情報を提供する④人物について(1)読解 9：情報を提供する⑤人物について(2)作文 10：情報を提供する⑥まとめ 11：ものごとを紹介する(1)聴解・要約 12：ものごとを紹介する(2)資料収集・整理 13：ものごとを紹介する(3)まとめ 14：個人テーマによる発表(1)資料収集・整理 15：個人テーマによる発表(2)口頭発表
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には、当該授業部分の資料を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント等をまとめるなど、復習に励むこと。
評価方法	課題提出 80%、口頭発表 20%で評価する。また、6回以上の課題未提出をE評価とする。課題の内容は初回の授業時に説明する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	適宜プリントを配布する。
参考テキスト・URL	『日本語口頭発表と討論の技術ーコミュニケーション・スピーチ・ディバートのためにー』東海大学留学生教育センター口頭発表教材研究会、東海大学出版会、1995
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	・履修は「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」を単位履修した者に限る。 ・文章表現法Aと文章表現法Bはそれぞれ独立した科目であり、単独で履修可能である。 ・2015年度以降入学生限定。

科目名称	キャリアデザイン A	授業コード	20001643
担当教員	前田 博美		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2021
関連資格		科目分類	学修基礎／社会参加・キャリア形成
		開講学期	後期

対面・遠隔の別	対面を基本とします。 (コロナ禍の対応で、オンデマンドになる場合もあります。)
遠隔の場合の主なツール	YouTube 動画+KDU ポータル (クラスプロファイル)
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	[授業の目的] ・自身のキャリアデザインについて考え、自ら主体的に取り組む力を身につける [到達目標] ・自分の力に気付く(自己分析)、さらに成長するための方法を考える ・コミュニケーション力とは何か ・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身につける
授業の概要 (内容)	「自分を深く知る」ことと、「社会参加への接近」をテーマに自己理解と社会に出るための基礎を深めます。これからの大学生活をより有意義なものにし、また、将来の目標を明確にすることで、実社会に主体的に参画していくための動機付けを行います。 この授業では、人とのコミュニケーションを通して、社会人として求められる能力の気づきや上達する方法を学びます。
授業計画	1：キャリアデザインって何でしょう？ 2：人生観・職業観について(社会に出るという事を理解する) 3：自己分析 初級編 (自分の良いところを見つめよう) 4：自己分析から成長させることを考える 5：自分の事を伝える(PREP 法)① 6：自分の事を伝える(PREP 法)② 7：伝える難しさを知ろう！①伝えることを準備しよう！ 8：自分のことをまとめてみよう。(自己PR総括) 9：就職・創作・進学・・共通に求められる力について知る(社会人基礎力+総合力)① 10：就職・創作・進学・・共通に求められる力について知る(社会人基礎力+総合力)② 11：「好きなこと」と「やりたいこと」、そして、コミュニケーション能力とは？ 12：インターンシップについて(キャリアセンターに聞いてみよう！) 13：自分のこれからをキャリアデザインする！(目標設定) 14：学校の外にも視野を広げよう！(卒業生の話) 15：総括2年生に向けて
実務経験のある教員	メーカーの経営企画及び人事部及び独立してからの採用業務での経験を活かし、実際の社会に出るために必要な知識や心構えを就職活動への導入部分として、具体的に身につく講義及びグループワークを行う。
授業時間外学習	配布資料を読み返し、復習し、何度でも、考えてみることを望ましい。 また、web サイトや新聞などで、日々の広い範囲のニュースを知ることを習慣とする。
評価方法	ワークシート等の課題提出とその内容で評価します。 毎回の授業内容のワークシートへの解答70%、授業の感想・意見コメント記入提出30%。 提出回数10回以下で評価欠格条件となりますので、単位修得出来ません。注意してください。
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業日に、特徴的なコメントや質問について、紹介及び回答する。
使用テキスト	当日、スライド+プリント配布
参考テキスト・URL	オリジナルテキストの配布
各自準備物	筆記用具
実習費	
その他	講義を聴いて自ら、課題の答えを考える講義です。 上記の授業計画は受講者の状況で変更することもあります。 ワークシートの未記入部分がある場合は、減点対象扱いとします。 ワークシート提出を5回以上未提出のものは失格とみなし、評価の対象にはならないので注意すること。 次年度キャリアデザイン B の継続履修を推奨します。

科目名称	キャリアデザイン B	授業コード	20001644
担当教員	藤村 貴子		
単位数	2	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2021
関連資格		科目分類	学修基礎／社会参加・キャリア形成
		開講学期	後期

対面・遠隔の別	対面授業 新型コロナウイルス感染症の状況により、遠隔授業(オンデマンドもしくはリアルタイム)に変更することがあります。
遠隔の場合の主なツール	遠隔授業の場合は、KDU ポータルおよび Teams を使用します。
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	授業の目的： 社会や企業、様々な仕事を見る力を学修するとともに、自分の特性をどのようにいかすことができるのかということ、具体的にイメージし、表現する力を身に付け、自ら行動する道筋を作る。 到達目標： ・情報収集力・ニュースを読む ・伝える力(コミュニケーション力・文章力) ・社会を知る・働くことへの理解 ・ディスカッション・グループワーク(チームで課題を解決するのに必要な力を理解し、主体的にかかわる)
授業の概要 (内容)	具体的な仕事をモデルケースにしなが、社会のニーズ、企業の仕組み、仕事をするこの意味をとらえる視点を学ぶ。また、言葉で表現する力を高め、自信をもって就職活動に進んでいく動機づけを行う。 全授業において、知識講義とワークを両立して進める。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 社会のニーズ① 社会と企業や仕事のニーズを知る 3. 社会のニーズ② 働くことの意味を考える 4. ビジネスの基礎① 業種・業界 5. ビジネスの基礎② 働く組織と働き方 6. 自己表現① 仕事をしていくうえで必要なマナー 7. 自己表現② 言葉にする力、伝える力 8. 卒業生が語る仕事と社会 9. 自分の価値を知る① 企業や組織が欲する人材、必要とされるスキル 10. 自分の価値を知る② 自立と収入 11. 仕事を社会に役立てる意識① 問題解決の力、論理的思考 12. 仕事を社会に役立てる意識② コミュニケーション、共同作業 13. 目標設定① セルフポジショニング、計画をたてる 14. 目標設定② プレゼンテーション 15. まとめ
実務経験のある教員	総合人材ビジネス業界で数々の仕事や採用現場に関わった経験、独立後の人材教育や就職支援の経験を活かし、実社会を想定した知識や社会人基礎力を身に付ける講義やワークを実施する
授業時間外学習	1. 授業の予習として、各テーマもしくは日々のニュースなどから自分なりの意見をまとめておくこと 2. 授業終了時に示す課題に関し、自分なりの意見をまとめて提出すること 3. 授業の内容を具体的な行動に結びつけ、日々の自らの成長を表現できるようにすること
評価方法	平常点 60%、提出物 40%で評価する。 出席回数 10 回以下で評価欠格条件となりますので、単位習得できません。注意してください。 授業がオンデマンドになる場合、課題の提出をもって出席とみなし、課題等への解答や取り組みを平常点とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業日に特徴的なコメントや質問についての紹介および回答を行う。
使用テキスト	オリジナルテキストの配布
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	上記授業計画は受講者の状況により変更することがあります。 新型コロナウイルス感染状況等により、オンデマンドもしくはオンラインでの授業形態に変更することがあります。 ワークシートの未記入部分がある場合、減点対象となります 次年度キャリアデザイン C の継続履修を推奨します

科目名称	キャリアデザイン C	授業コード	20001645
担当教員	前田 博美		
単位数	2	授業形態	講義
年次	3	開講年度	2021
科目分類		開講学期	前期
学修基礎/社会参加			
関連資格			

対面・遠隔の別	対面を基本とします。 (コロナ禍の対応で、オンデマンドになる場合もあります。)
遠隔の場合の主なツール	YouTube 動画+KDU ポータル (クラスプロファイル)
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向けてのプロセスを組み立てる <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや想いを相手にわかりやすく伝える ・就職活動の最新情報を収集し対策できる力をつける ・就職一般試験を知り、十分対応できる力をつける ・働く事について考え、自身の目標を達成する為の計画を立てられるようになる
授業の概要 (内容)	<p>就職活動の流れを学習し、応募書類や筆記試験、面接試験について学びます。筆記試験対策は、より早く解くためのコツやどのように勉強を進めればよいかを実際の問題を解きながら取り組んでいきます。エントリーから最終面接までの常識を学び、不安を解消します。就職活動の最新情報を提示します。</p> <p>なお、この授業の担当者は、人事部での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導するものとする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション : この講義の目的とゴール 2. 学生時代に頑張ったことをまとめる : 学生時代に頑張ったことの洗い出し/就職適性試験対策①割合/損益算 3. エントリーシートの書き方のポイント : エントリーシートの書き方のポイント 就職適性試験対策②分割払い/代金の清算/同意語・反対語・5択 4. 学生時代頑張ったこと・自己PR : 学生時代頑張ったことと自己の違いを理解する 就職適性試験対策③速度算/集合 5. 自己の良い部分の再認識 : 自己PRの見直し/就職適性試験対策④順列・組み合わせ/確率 6. 職種について知る : 将来やりたいことを考える⇒職種の現実の内容を知る 就職適性試験対策⑤表の読み取り 7. 志望動機のみまとめ : 志望動機の良い書き方を知る⇒うまい自己PRの取り入れ方 就職適性試験対策⑥グラフの領域 8. 文章作成講座 (PREP 法) : 簡潔で印象に残る文章を書く力を身につける 就職適性試験対策⑦推論 I 9. 書類対策 : 応募書類の概要と基本の記入の仕方について 応募書類提出のマナーを知る 就職適性試験対策⑧推論 II 10. 業界と業種の違い : 業界と業種、職種の違いを知り、自身のやりたいことから企業を発見する 就職適性試験対策⑨四則計算/図表の読み取り 11. 個人面接・集団面接・グループディスカッションの違いと対応 : オンラインも含めた現状の採用を知る 就職適性試験対策⑩模擬テスト 12. 模擬グループディスカッション : 自身の役割を理解し、相手に伝える表現方法を身につける 13. 卒業生・内定者の話から将来を組み立てる 14. エントリーシート総括 : 自己PR・学生時代頑張ったこと・志望動機の整合性を確認する 15. 総括 : 社会に目を向ける⇒一般常識+ニュースを読む(現状把握力)

実務経験のある教員	メーカーの経営企画及び人事部及び独立してからの採用業務での経験を活かし、実際の社会に出るために必要な知識や心構えを実際の就職活動に結び付く部分として、具体的に身につく講義及びグループワークを行う。
授業時間外学習	配布資料を読み返し、復習し、何度でも考えてみることを望ましい。 また、WEB サイトや新聞などから、日々の広い範囲のニュースを知ることが習慣にする。
評価方法	ワークシートなどの課題提出及びその内容、一般就職対策模擬テストの点数で判断します。 毎回の授業内容のワークシートへの回答70%、一般就職対策模擬テストの点数30%。 ワークシートの提出回数10回以下で評価欠格条件となりますので、単位習得できません。 注意してください。
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業日に、特徴的なコメントや質問について、紹介及び回答します。
使用テキスト	当日のスライド+プリントの配布（対面の場合）
参考テキスト・URL	
各自準備物	筆記用具
実習費	
その他	講義を聴いて自ら、課題の答えを考え、作成する講義です。 上記の授業計画は、受講者の状況で変更することがあります。 ワークシートの未記入部分がある場合は減点対象となります。 ワークシート提出を5回以上、未提出の者は失格とみなし、評価の対象にはならないので注意すること。